

新型コロナワクチン 秋から冬に次の接種方針「後からひどい内容が出てくるぼったくりパーみたい」島根県・丸山知事「危険な対応」と批判

2/8(水)BSS 山陰放送

8日、新型コロナワクチンの4月以降の接種について、秋から冬に次の接種を行うべきとする基本方針が厚生労働省の専門部会によりまとめられたことについて、島根県の丸山達也知事は「身を守る道具をどんどん奪っていくような危険な対応」と述べました。

丸山知事は8日の定例会見で、コロナの対策を講じているにも関わらず、全国で死者が1日500人規模で発生している現状を国は事実として受け止めていないとし、秋冬のワクチン接種方針について「危険な対応」としました。

島根県 丸山達也知事

「本当は5類化（決定の）時にセットで決めておかないといけないことが決められずに、5類化が決まって後から申し訳ないけどひどい内容が出てくる。ぼったくりパーみたい」また丸山知事は、卒業式などで、感染状況が落ち着いていればマスクを外しての参加も容認出来るとの見解に対して、県内でのマスク着用を緩和することは行政として慎重であるべきとしました。

災害対策などに用いられる「自助・共助・公助」を例に挙げ、5類化は行政の役割や財政が減り「公助」が縮小するとしたうえで、マスクを着用する行為を自身の感染を防ぐ「自助」、他人に感染を広げない「共助」として、5類化を遂行していない段階で安易に緩和するのは本末転倒であると述べました。

島根県 丸山達也知事

「私はマスク（着用に）効果がない、意味がないと言っている人の話は採用すべきでないと思う。聞くに値しないと私は思う。マスクに効果はあるし効果があるものをやめるかどうかを決めようとしている」

そして、卒業式などでのマスク着用に関して、次のように述べました。

島根県 丸山達也知事

「学校の先生と教育委員会が卒業生のためになるように現場感覚で判断してもらおう。文部科学省に現場感覚なんかないんだから。ハッキリいって」

丸山知事は、クラス単位や無言での写真撮影など、学校や教育委員会の現場の工夫で行うべきとしました。

「吹雪の中でコートを脱ごうとしている」と知事 「5類」移行と卒業式のマスク未着用、同時に進める政府姿勢を批判

島根県の丸山達也知事が8日、新型コロナウイルス感染症の法的位置づけの「5類」への移行と、学校の卒業式や入学式でのマスク未着用の容認を同時に進めようとする政府の姿勢について「吹雪の中でコートを脱ごうとしている」と批判し、議論の慎重さを欠いているとの認識を示した。

丸山知事は会見で「マスクを着けるといえるのは自助であり、共助だ」と主張。感染症法上の位置づけが5月8日から引き下がり、感染者の外出制限などがなくなる点を踏まえつつ「ただでさえ公助を弱めるのに、自助や共助も弱める必要はない」と述べた。

その上で、国公立大の2次試験の前に卒業式を行う県立高校が多いとして「慎重な人は行かないと思うし、卒業式をそんな場にしたいのか」とけん制した。

政府が4月以降、次回のワクチン接種の時期が全世代で秋冬となるよう検討している点にも触れ、冬期に広がる季節性インフルエンザと通年で拡大するコロナの特性の違いを強調。「過去最大の死者が出ている事実を忘れようとしている対応だ」と突き放した。